

《研究課題名》

アトピー性皮膚炎の遺伝子解析および遺伝子発現解析

《研究対象者》

整理番号 12-31. 研究課題名「アトピー性皮膚炎患者における DNA 多型およびサイトカイン発現の解析」にご協力いただいた以下の方々です。

2000年9月～2002年3月の間に滋賀医科大学付属病院皮膚科を受診され、日常診療における採血の際に、同意の上、血液を採取させていただいたアトピー性皮膚炎患者さん 577名と非アトピー性皮膚炎患者さん 131名。2000年10月23日から25日に行われた滋賀医科大学の健康診断時に、アトピー性皮膚炎の遺伝子解析研究にご同意いただき静脈血 10ccをご提供いただいたアトピー性皮膚炎のない医師 120名、病棟勤務者 199名、事務系職員 220名、合計 539名。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している試料・情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記（４）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究課題名》

アトピー性皮膚炎の遺伝子解析および遺伝子発現解析

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日 2011年12月20日から2030年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 滋賀医科大学 解剖学講座生体機能形態学部門 教授 氏名 宇田川潤

（２）研究の意義、目的について

《意義》

アトピー性皮膚炎の原因遺伝子はいまだ十分に解明されていません。現在確立され汎用されている治療法を用いてもなお、十分な治療効果を得られない患者さんもいます。そこで今回の研究を通じてアトピー性皮膚炎の新たな治療法につながる遺伝子情報を解明することにより多くの患者さんの生活の質を改善し患者さんの喜びにつながられる可能性があります。

《目的》

この研究はアトピー性皮膚炎の原因となる遺伝子を調べ、治療の進歩に役立てることを目的としています。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

これまでわれわれがマイクロアレイ法により解明したアトピー性皮膚炎患者の非病変部において発現変動が見られた42個の遺伝子についてなぜ皮膚症状の発現以前から遺伝子の発現変動が生ずるのかを検討します。

《利用する試料・情報の項目》

アトピー性皮膚炎患者さんと非アトピー性皮膚炎患者さんの血液を使用します。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

本研究の研究責任者 宇田川 潤 解剖学講座 生体機能形態学部門 教授

(4) 本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 解剖学講座 生体機能形態学部門 宇田川 潤、杉浦久嗣

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2136

メールアドレス：udagawa@belle.shiga-med.ac.jp (宇田川)、
sugiurah@belle.shiga-med.ac.jp (杉浦)

オプアウト

《研究課題名》

アトピー性皮膚炎の遺伝子解析および遺伝子発現解析

《研究対象者》

1993年1月～1994年12月の間に滋賀医科大学付属病院皮膚科において皮膚腫瘍あるいは尋常性乾癬の疑いで病理検査を受けられた方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している試料（皮膚）病理組織標本）を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（8）の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

《研究課題名》

アトピー性皮膚炎の遺伝子解析および遺伝子発現解析

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日 2011年12月20日から2030年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 解剖学講座生体機能形態学部門 教授 氏名 宇田川 潤

（2）研究の意義、目的について

《意義》

アトピー性皮膚炎の原因遺伝子はいまだ十分に解明されていません。現在確立され汎用されている治療法を用いてもなお、十分な治療効果を得られない患者さんもいます。そこで今回の研究を通じてアトピー性皮膚炎の新たな治療法につながる遺伝子情報を解明することにより多くの患者さんの生活の質を改善し患者さんの喜びにつなげられる可能性があります。

《目的》

この研究はアトピー性皮膚炎の原因となる遺伝子を調べ、治療の進歩に役立てることを目的としています。

（3）研究の方法について

《研究の内容》

これまでわれわれがマイクロアレイ法により解明したアトピー性皮膚炎患者の非病変部において発現変動が見られた42個の遺伝子についてなぜ皮膚症状の発現以前から遺伝子の発現変動が生ずるのかを検討します。

《利用する試料・情報の項目》

本研究ではすでにアトピー性皮膚炎の皮膚の遺伝子発現を検討するためにアトピー性皮膚炎患者20名にご参加いただき幾つかのアトピー性皮膚炎の候補遺伝子を見つけております。そこで、アトピー性皮

オプトアウト

膚炎以外の方での皮膚で、これらの候補遺伝子のタンパク質がどの程度発現しているのかを調べる事が大切になります。今回、滋賀医科大学付属病院皮膚科において皮膚腫瘍あるいは尋常性乾癬の疑いで病理検査を受けられた方で、日常診療行為において採取された検体から作成した皮膚の病理組織を解析の対象とさせていただきます。アトピー性皮膚炎以外の方につき、約16名の方にご協力いただく予定です。

《試料・情報の提供先》

他施設への提供はありません

《試料・情報を利用する者の範囲》

本研究の分担研究者のうち皮膚組織の解析を担当する解剖学講座 生体機能形態学部門
客員講師 杉浦久嗣、皮膚科学講座 **非常勤講師** 杉浦周嗣 および 病理部 臨床検査技師
林 裕司 の三名とします。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

本研究の研究責任者 宇田川 潤 解剖学講座 生体機能形態学部門 教授

《本研究に用いた試料・情報の二次利用について》

この研究で有用な知見が得られた場合、今回ご提供いただいた試料を用いてアトピー性皮膚炎の候補遺伝子の皮膚での機能をさらに明らかにする研究の実施を予定しています。後続の研究で使用する際は改めて倫理審査委員会において承認を得てから行います。また、本学附属病院のホームページ (<https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/ethics/index.html>) でその旨についての情報を公開いたします。

(4) 個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた試料・情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の試料・情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

(5) 研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(7) 利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2025年3月31日までに下記(8)にご連絡ください。

オプアウト

(8) 本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 解剖学講座 生体機能形態学部門 宇田川 潤、杉浦久嗣

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2136

メールアドレス：udagawa@belle.shiga-med.ac.jp (宇田川)、
sugiurah@belle.shiga-med.ac.jp (杉浦)